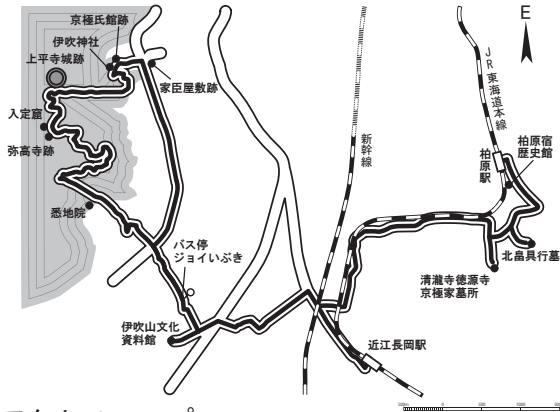


京極氏遺跡群

— 京極氏館跡・上平寺城跡・弥高寺跡 —



アクセスマップ

京極氏館跡までは、
自家用車で関ヶ原 IC より約 10 分、長浜 IC より約 15 分
JR 柏原駅より徒歩約 90 分（約 4.8km）
JR 近江長岡駅より近江鉄道バスジョイ伊吹下車、徒歩 60 分

京極氏遺跡群を見学されるみなさんへ

京極氏遺跡群の見学の際には、ゴミは各自で持ち帰り、山では火を使用しないなど、文化財の保全に御協力ください。

また、伊吹山周辺にはクマ・イノシシやヒル・スズメバチなども生息しています。上平寺城跡・弥高寺跡の見学には、クマ除けの鈴を携行していただくなど、十分ご注意ください。

埋蔵文化財活用ブックレット9（近江の城郭4）
京極氏遺跡群

刊行：平成23年10月14日
編集：滋賀県教育委員会・米原市教育委員会
制作・刊行：滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
住所：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
電話：077(528)4674・FAX:077(528)4956
e-mail: ma07@pref.shiga.lg.jp
印刷：近江印刷株式会社



■ 目 次 ■

1. 京極氏のあゆみ	1
●京極氏列伝	2
2. 京極氏遺跡群	4
●北近江の守護町 上平寺	4
《コラム》『上平寺城絵図』を読む	6
●京極氏館跡	7
●京極氏庭園跡	9
●家臣屋敷跡	11
《コラム》京極氏の家臣団	12
●上平寺区有文書	13
《コラム》京極氏館前史	13
●上平寺城跡	14
●弥高寺跡	17
《コラム》伊吹山寺	19
3. 京極家菩提寺「清瀧寺徳源院」	20
4. 越前街道(北国脇往還)	22
《コラム》越前街道(北国脇往還)にゆかりの人々	23
5. 関連する文化財	24
6. お城を活かしたまちづくり	27
7. 周辺文化施設の案内	28

本埋蔵文化財活用ブックレットは、米原市教育委員会と滋賀県教育委員会が協働して原稿を作成し、滋賀県教育委員会が国庫補助金(史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業費)を受けて刊行した。

表紙写真：『上平寺城絵図』(米原市教育委員会所蔵)

■ 1. 京極氏のあゆみ ■

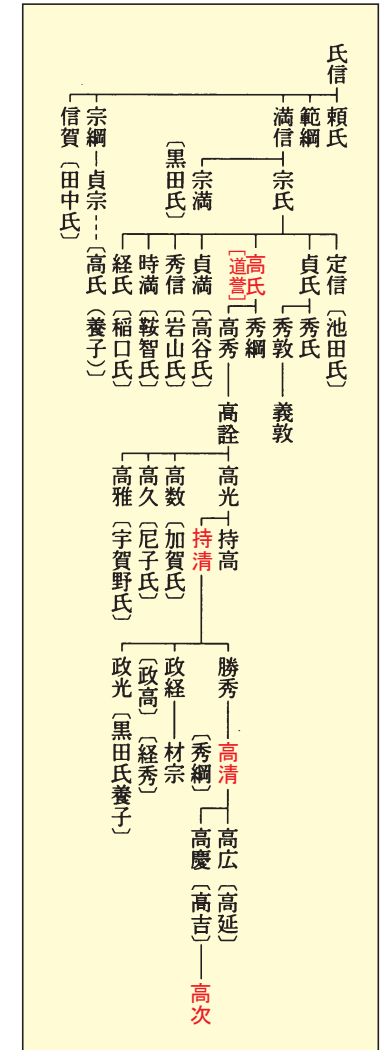
近江源氏佐々木氏の分流京極氏は、鎌倉時代に佐々木信綱の四男氏信が、北近江を与えられ、京都の京極高辻に屋敷を構えて「京極氏」と名乗ったことに始まります。

佐々木氏の分家にすぎなかった京極氏は、南北朝の内乱での京極道誉の活躍により、室町時代には本家佐々木六角氏に並ぶ勢力となります。

戦国時代には京極高次が北近江上平寺に守護所を構え、守護大名への道を歩み始めますが、家臣浅井氏の台頭により、その実権を失います。京極高次は、豊臣秀吉に仕え、衰退していた京極氏の復興を果たすとともに、関ヶ原の戦いでは、大津籠城戦により、東軍に勝利をもたらしました。その軍功により、京極高次は小浜藩主として江戸時代を迎えます。



佐々木氏の氏神 沙々貴神社
(近江八幡市安土町)



佐々木氏・京極氏の系図

● 京極氏列伝

京極道誉 「婆娑羅大名」として有名な京極道誉は、鎌倉時代末～南北朝時代の動乱期を権威に縛られることなく、先を見通す眼力と持ち前の豪快さで切り抜け、本家佐々木六角氏を凌ぐ勢力にのし上がりました。

執権北条高時の御相伴衆であった京極道誉は、足利尊氏とともに後醍醐天皇方に味方し、鎌倉幕府を倒します。

その後、後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻し、室町幕府の成立に尽力しました。その功績により政所執事や近江・出雲・若狭など6カ国の守護などの幕府の要職に任じられました。



京極道誉の墓（甲良町正楽寺）

京極持清 応仁の乱は、京極氏や六角氏をも戦乱の渦に巻き込みます。幕府の侍所長官であった京極持清は、領国の北近江や飛騨・出雲・隠岐の軍勢を率いて、東軍細川方に参戦しました。一方、同族の六角高頼が西軍方に属したことから、両者は近江において激しい戦いをくり広げました。

京極持清は、終始、戦いを優位に進め、六角氏の観音寺城をたびたび攻略するとともに、文明元年（1469）には六角氏に代わり、130年ぶりに近江国守護となりました。



観音寺城跡（近江八幡市安土町）

京極高きよ 戦国時代、京極氏は家督争いに明け暮れ、衰退していきます。その中であって上平寺に守護所を置いた京極高きよの統治のもと、16世紀初頭の約20年間、北近江は平穏な時を迎えました。しかし、重臣らの争いを制した浅井亮政の台頭によって、北近江の政治の実権は、浅井氏に移ります。

京極高たつ 浅井氏の傀儡と化した京極氏を復興し、大名家として江戸時代に存続させたのは、浅井三姉妹の次女 初の夫であった京極高たつです。

京極高たつは、豊臣秀吉に仕え、天正14年（1586）に大溝城主（高島市勝野）となります。その後、八幡山城主（近江八幡市宮内町）を経て、文禄4年（1595）には大津城主（大津市浜大津一丁目）となり、関ヶ原の前哨戦では、大津城籠城戦において、西軍の1万以上の大軍を釘付けし、関ヶ原の戦いを東軍勝利に導きました。その功績により、京極高たつは小浜藩8万5千石の大名となり、鎌倉時代からの名門京極家の命脈を保ちました。

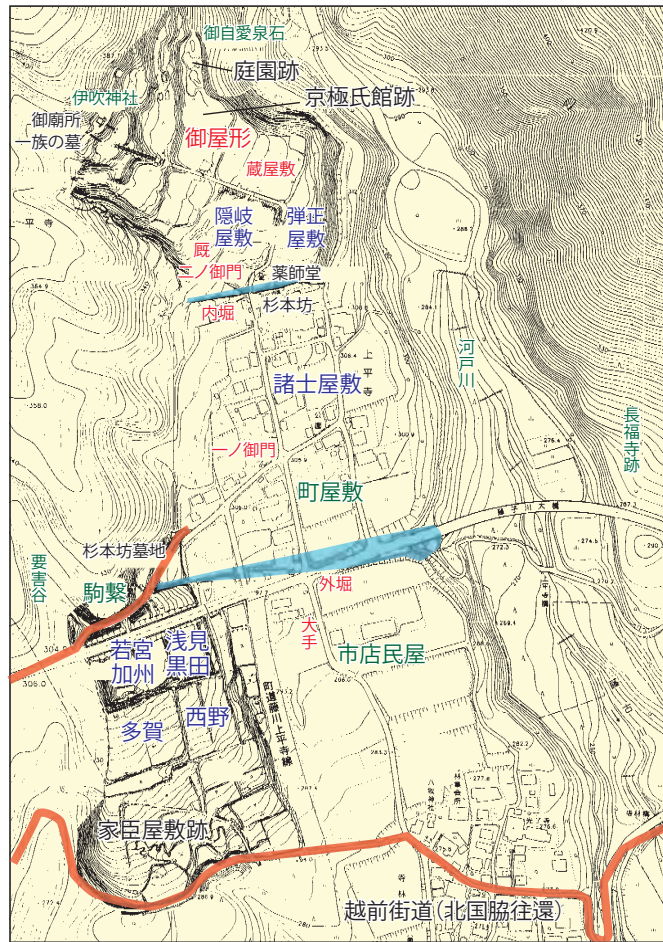


国宝彦根城天守 大津城天守は廃城後、家康の命により彦根城へ移築されました。

■ 2. 京極氏遺跡群 ■

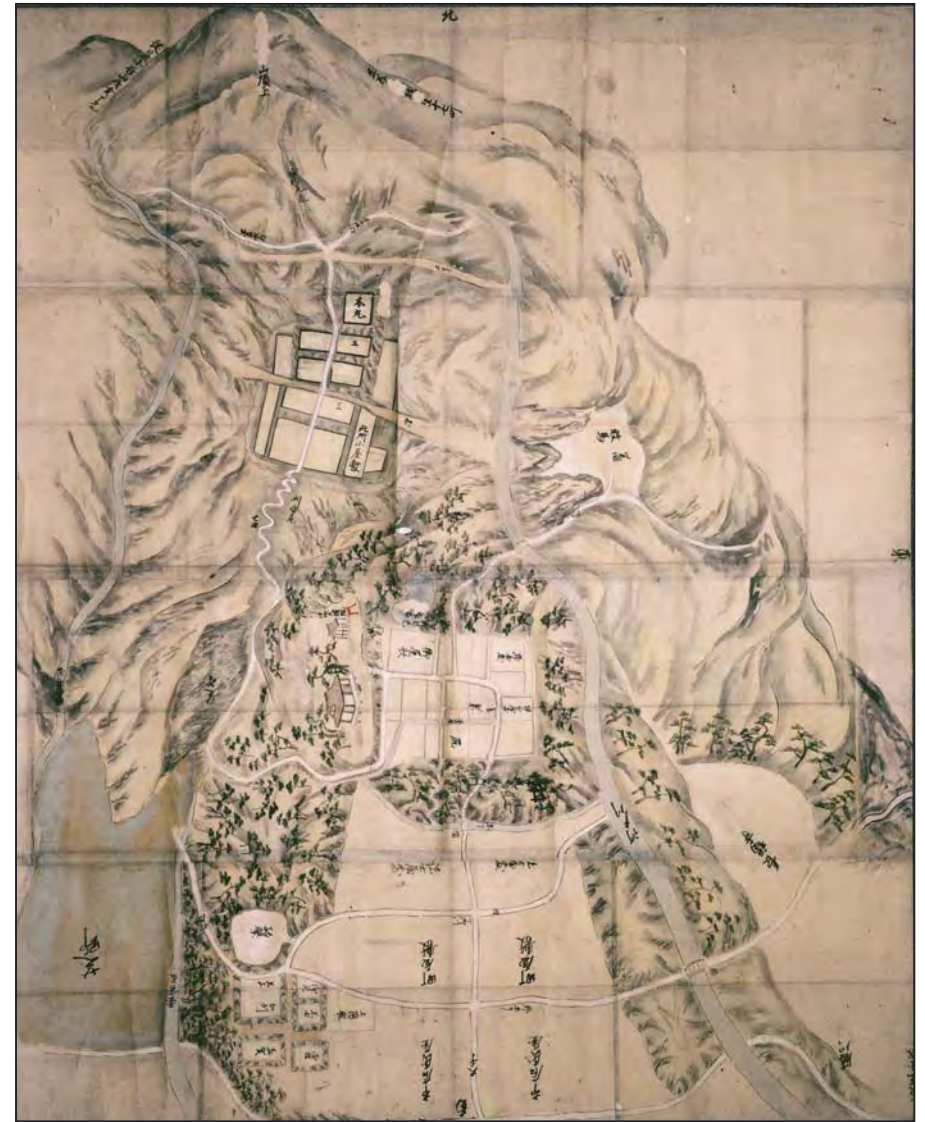
● 北近江の守護町 上平寺

永正2年(1505)、京極家の内紛を収めた京極高き(かしろ)清は、柏原館(米原市清滝)を廃し、美濃国との国境近くの坂田郡上平寺(米原市上平寺)に守護所「京極氏館」を構えるとともに、背後の尾根上に「詰め城」の上平寺城を築城し、館の南側に家臣や町人が住む守護町「上平寺」を造りました。



上平寺城下概要図

上平寺は、東方を藤古川の深い溪谷、西方には家臣屋敷が並ぶ高殿地区の尾根と要害谷に守られ、南側を外堀で遮断する防御に優れた構造をとります。一方、町の南側に美濃国と越前国を結ぶ越前街道(北国脇往還)が通る交通の要所でもありました。



『上平寺城絵図』(米原市教育委員会所蔵)

大永 3 年（1523）の国人一揆により落城するまでの約 20 年間、上平寺は北近江の政治・文化の中心だったのです。

京極氏館跡や庭園跡・家臣屋敷跡・上平寺城跡・弥高寺跡といった京極氏に関連する遺跡群は、戦国大名の姿を今に伝える貴重な文化財として、史跡「京極氏遺跡 京極氏城館跡・弥高寺跡」に指定されています。



史跡「京極氏遺跡 京極氏城館跡・弥高寺跡」の遠景

《コラム》『上平寺城絵図』を読む

京極氏が造った町「上平寺」の姿は、江戸時代初期の作と推定される『上平寺城絵図』（市指定文化財）に描かれています。『絵図』の姿は、現状の地形や遺構とほぼ一致しており、京極氏の城と城下町「上平寺」を探る上での貴重な手がかりとなっています。

● 京極氏館跡

一族の内紛を収めた京極高きは、山岳寺院・上平寺を改修して守護居館を築きます。上平寺の伊吹神社境内全域が京極氏館跡で、庭園を伴った京極氏の屋敷、一族・重臣の隠岐屋敷や弾正屋敷（大津屋敷）、蔵屋敷といった邸宅が建ちならんでいたようです。

京極氏が日常生活や政務をおこなっていた「御屋形（お館）」跡は、現在二段に分かれています。下段の地表下約 40 cm で、当時の生活面と思われる黄茶色の粘質土層を確認、これが上段にも続き当時は 1 面の広大な面積であったことがわかりました。庭園に近接する部分では、直径 20 ～ 50 cm の礎石を約 30 点検出し、礎石の配列から、東柱が良好にのこる縁のまわる建物と、これと並行する小規模な建物の 2 棟があったことを確認しました。



京極氏館跡の発掘調査 庭園に沿う建物の礎石が確認されました。

【京極氏館跡の出土遺物】

出土遺物は礎石建物周辺で濃密に分布し、宴の杯や灯りとりとして使われた土師皿や、陶磁器片、釘、古銭などが出土しています。礎石建物は宴や儀式を行った建物（会所）だったと考えられます。



土師皿

土師皿（かわらけ）とくに大量に出土した土師皿は、一度きりの清浄の器で、非日常的なハレの儀式が頻繁におこなわれていた特別な空間だったことを物語ります。また、座敷を飾った中国製の青磁片や白磁片など高価な品も出土しています。



輸入陶磁器ほか

竿秤の錘 やや縦長の球形をしていて、縦方向に 10 本の稜線が刻まれています。上部には釣り下げるための穴が開いた突出部が付き、現在確認されているところでは全国で約 23 点出土していて、時期は中世末～近世初頭（14 世紀末～17 世紀初頭）に限定される遺物です。また、ほとんどが各地の拠点的な城跡から出土しており、在地権力に伴う遺物です。



竿秤の錘

● 京極氏庭園跡

館跡の北東部には、2つの池の周りに多数の庭石を配した庭園跡があります。この庭は、背後の山や溪谷を借景に取り込んだ池泉観賞式庭園で、西側の斜面裾に滝組石や水分石などの景石が配されています。また、中央の低い築山には、「虎石」と呼ばれる巨石があります。この石は、身を反らして吠える虎のような傾いた立石で、組み合った平石とともに、豪壮な景観をかもしだしています。また一説には、この石組は蓬莱思想を示す鶴石や亀石であったともいわれています。

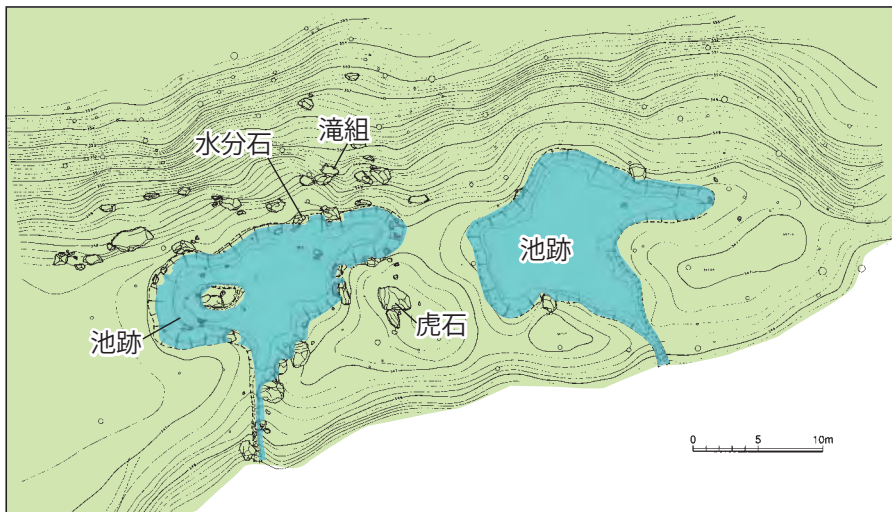
様々な宴や儀式が行われたであろうこの庭は、大永 3 年（1523）の館の終焉とともに長い眠りにつきました。京極氏館跡の庭園は、類例の少ない戦国時代の武家庭園のなかで、作庭時期が判明する貴重な名園なのです。



京極氏庭園跡



虎石



京極氏庭園跡測量図

● 家臣屋敷跡

『絵図』には、京極氏の居館以外にも、屋敷が記されたところがあります。それは京極氏館内の「**隠岐屋敷**」「**弾正屋敷**」や、城下の南西（高殿地区）の「**若宮**」「**加州**」「**多賀**」「**浅見**」「**黒田**」「**西野**」です。これらは、いずれも北近江の各地に拠点をもつ有力家臣達や京極氏の一族でした。

これらの屋敷は、京極氏館の入口付近や、城下の南西端にあって、越前街道や要害谷を見下ろす尾根上の高殿地区といった防衛上の拠点に配置されています。特に高殿地区では、三方に土塁を巡らせた方形の屋敷地が整然と並んでおり、計画的に造られたことを物語っています。

高殿地区の発掘調査では、建物の礎石や石組溝、屋敷を区画する石垣のほか、城下への入口にあたる砂利敷きの堀底道、土塁などが見つかりました。



発掘調査された家臣屋敷跡の土塁（若宮屋敷）

《コラム》京極氏の家臣団

『絵図』に記された家臣達は、北近江の各地に所領と城館を領する有力国人でした。当時の城主を記した『江州佐々木南北諸土帳』などによると、「隠岐」氏が米原市長岡、「若宮」氏が米原市飯、「多賀」氏が甲良町下之郷、「黒田」氏が米原市本郷や長浜市木之本町黒田など各地に居館を構えていたとされます。

また、「浅見」氏は長浜市湖北町尾上に所領を持ち、山本山城を居城としたことが知られています。

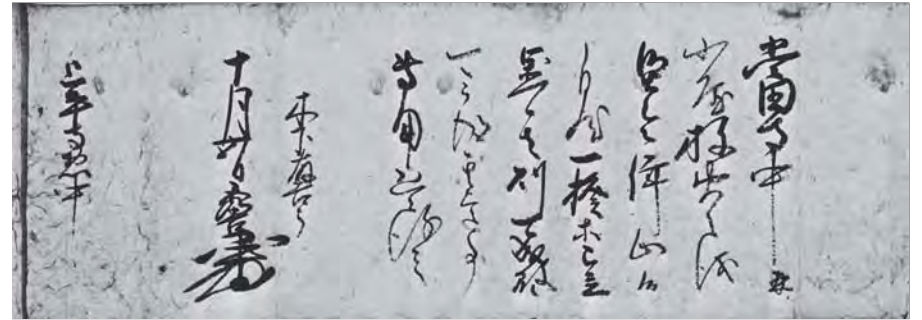


京極氏家臣達の本拠地



山本山城跡 主郭の周囲に土塁がめぐっています。

● 上平寺区有文書



上平寺区有文書 (米原市上平寺区所蔵)

写真は木下藤吉郎を名乗るころの秀吉文書で、上平寺の寺坊への放火や一揆の禁止を上平寺惣中に伝えたものです(年不詳)。このほか上平寺には、天文7年(1538)に黒田氏と多賀氏が連名で、京極高清の供養を上平寺に命じた文書など、中世文書が大切に保管されています。

《コラム》京極氏館前史

上平寺は、弥高寺などと同様に伊吹山寺のひとつとされ、古くは大谷寺と称しました。当初は山腹(上平寺城跡)にあったものが、山麓(京極氏館)に再建されたものと思われ、集落内には寺院関連の地名が見られます。守護居館整備に伴い信仰を受け、館廃絶後も高清の菩提寺となりました。天文5年(1536)の文書には47の坊名が確認できます。



伊吹神社 絵図では、伊吹大権現が御館の上段に描かれています。

● 上平寺城跡

伊吹山から南側に伸びる尾根上にある上平寺城跡は、京極氏館の「詰め城」として京極高濂によって築かれたと考えられます。大永3年（1523）、家臣団のクーデターにより高濂が失脚すると、上平寺城は京極氏の主城としての地位を失い、北国脇往還や東山道の美濃国境を防衛する境目の城として機能しました。その後、北近江の覇者となった浅井氏は、上平寺城をめぐる齋藤氏や織田氏と攻防戦を繰り返します。『信長公記』には、元亀元年（1570）、浅井方の上平寺城と長比城が守将の堀・樋口の内応により、戦わずして織田方に開城したことが記されています。

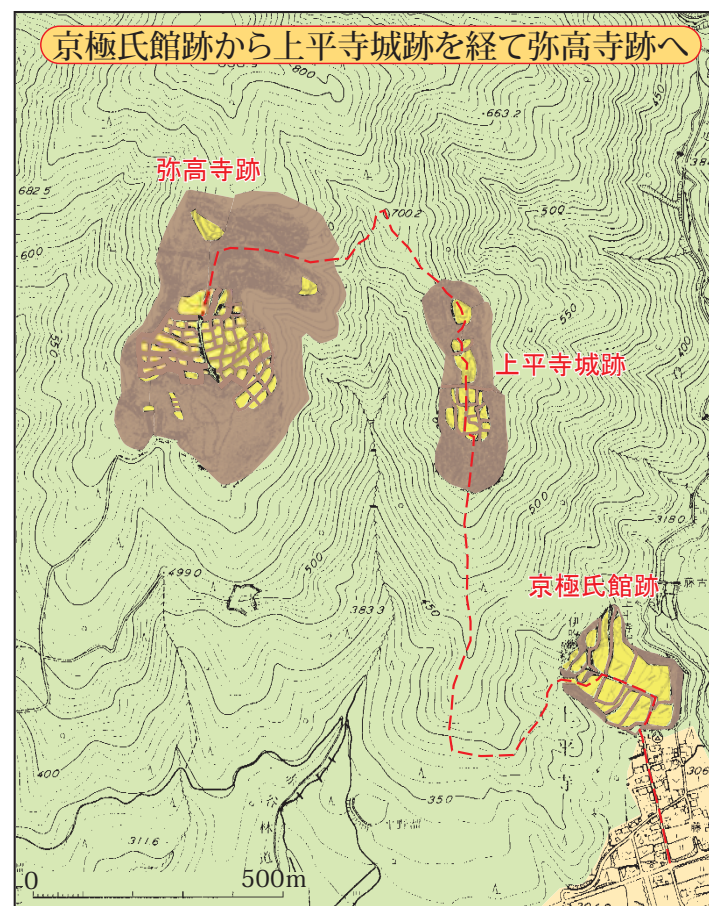
上平寺城は要所を堀切や塹堀、敵堀で防御する連郭式の城郭で、主郭や二の丸などに大規模な土塁がみられます。畝状塹堀群といったより新しい築城技術が見られることから、京極氏の退去後に修築されたと考えられます。



京極氏館跡・上平寺城跡・弥高寺跡の遠景

上平寺城跡へは、京極氏館跡にある伊吹神社の鳥居の手前を左に折れ、山道を登ります。見学道には、道標などがありますので、指示に従って道なり（約1.2km）に進むと50分ほどで城跡にたどり着きます。

上平寺城跡（標高約660m）は、滋賀県で最も高い場所に造られた城跡の1つです。主郭に上ると晴れた日には、はるか名古屋駅のツインタワーまで見渡せます。



上平寺城跡・弥高寺跡への案内図



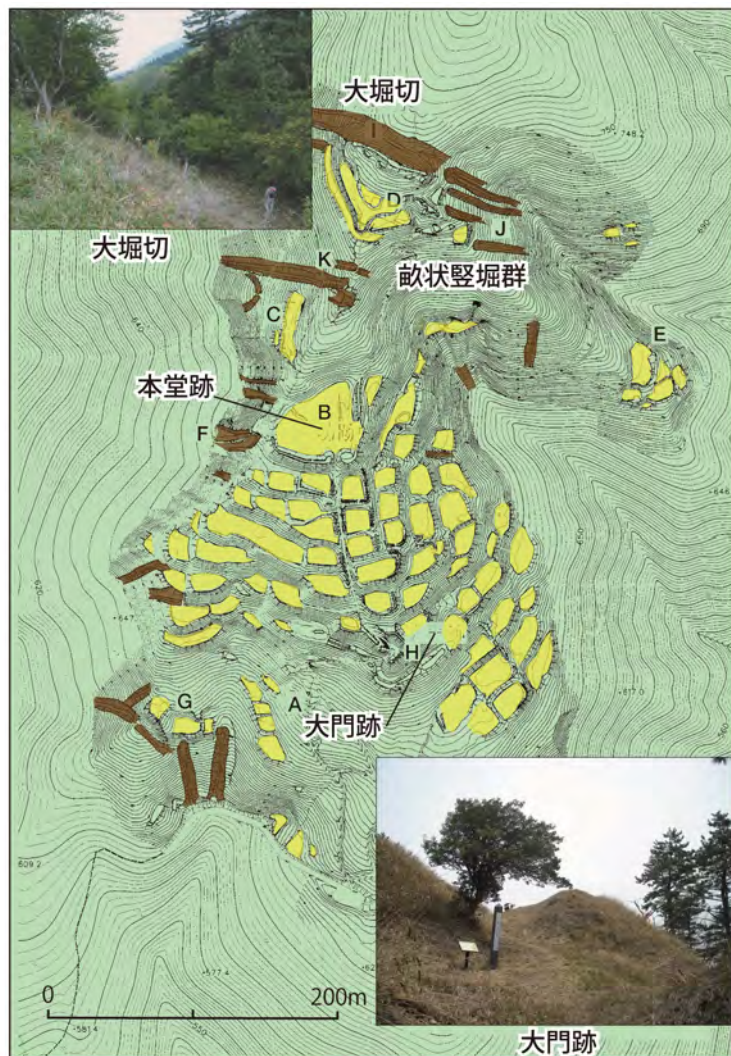
● 弥高寺跡

弥高寺は、寺伝によると役行者を開基とし、伝説的な山林修行者・三修が草創した伊吹山寺の系譜をひく近江最古の山岳寺院のひとつとされ、中世伊吹修験の中心的寺院でした。しかし、応仁の乱以降、京極家の内紛では山城として機能していたようで、明応4年（1495）に京極政高が「弥高寺より進み」、翌年には京極高澄が弥高寺に「御陣」を構えていることが記録にみえます。戦国時代には京極氏が上平寺の館の背後にある当寺を城郭に改修しましたが、寺院は京極氏の退転後も存続し、天文5年（1536）の記録には47の坊院がありました。しかし、浅井氏の滅亡（1573年）後、時を経ずして天正8年（1580）に西山麓に移転しました。



弥高寺跡 僧坊跡検出状況

城郭遺構としては、南前面に枡形虎口^{ますがたこぐち}の大門と横堀による防御ラインを設け、本堂背後には、畝状堅堀群^{うねじょうたてぼりぐん}を持つ曲輪^{くるわ}、さらに背後を巨大な堀切で区切っています。南西側面にも随所に堅堀を設けており、寺域の内部の改変を最低限に抑えながら縁辺部を厳重に防御しています。



弥高寺跡概要図

【弥高寺跡の発掘調査成果】

発掘調査では、本堂の直径 90 cm 前後の礎石や、3 間 × 6 間の庫裏^{くり}と仏堂を兼ね備えた僧坊跡^{そうぼう}の礎石建物を検出しました。遺物は、京極氏が改修を加えた時期にあたる 15 ~ 16 世紀前半が中心で、仏具のほか、灯りとり^{とうりとり}の土師皿や貯蔵用の甕などの雑器が多く見つかりました。坊院跡の石垣は、15 世紀中頃 ~ 後半の構築と考えられ、石垣遺構としては古いものです。



石垣遺構

【山岳寺院「弥高寺」】

60 を超える坊跡群は、東西約 250m、南北約 300m の範囲に集中し、本堂跡は約 68m × 59m を測ります。弥高寺跡は山岳密教から展開した中世山岳寺院の中でも典型例で、大規模でまとまりのある姿を見ることができます。

《コラム》伊吹山寺

伊吹山は平安時代の初めに、日本の「七高山」の一つに数えられました。役行者や白山の泰澄^{たいさう}が入山し、仁明天皇期 (833 ~ 850) に一精舎が建てられ、仁寿年間 (851 ~ 854) に三修が伊吹山に登って国家公認の定額寺に列せられました。この頃に伊吹山護国寺が成立し、のちに展開して弥高寺・太平寺・観音寺・長尾寺の伊吹山四ヶ寺となります。



太平寺跡古写真 (昭和 30 年代)

■ 3. 京極家菩提寺「清瀧寺徳源院」 ■

初代の京極氏信が創建したと伝わる清瀧寺（米原市清滝）は、歴代当主が眠る京極氏の菩提寺です。南北朝時代には、婆娑羅大名と呼ばれた京極道誉が清瀧寺を拠点として活躍しました。境内には彼が植えたといわれるしだれ桜（道誉桜）が伝わっています。

戦国時代、京極氏と運命を共にし、衰微していた清瀧寺は、丸亀藩主京極高豊による伽藍復興により、息を吹き返します。三重塔（寛文12年（1672）・県指定建造物）や京極家墓所（史跡）、徳源院庭園（県指定名勝）は、高豊によって整備されたものです。



徳源院庭園（県指定名勝）



清瀧寺徳源院 三重塔（県指定建造物）

徳源院の背後に広がる史跡京極家墓所は、斜面上段に初代氏信から18代高吉まで18基もの宝篋印塔が並び、下段には京極家中興の祖である京極高次霊廟を中心に歴代丸亀藩主や多度津藩主の墓所が営まれています。

上段に並ぶ宝篋印塔は、造営時期が特定できることから、近江の石造文化財の基準資料としても貴重なものです。また、高次霊廟は、越前より運ばれた笏谷石で造られており、隣接する22代高豊から25代高中の木製霊廟とともに、京極家の格の高さを示しています。



京極高次霊廟



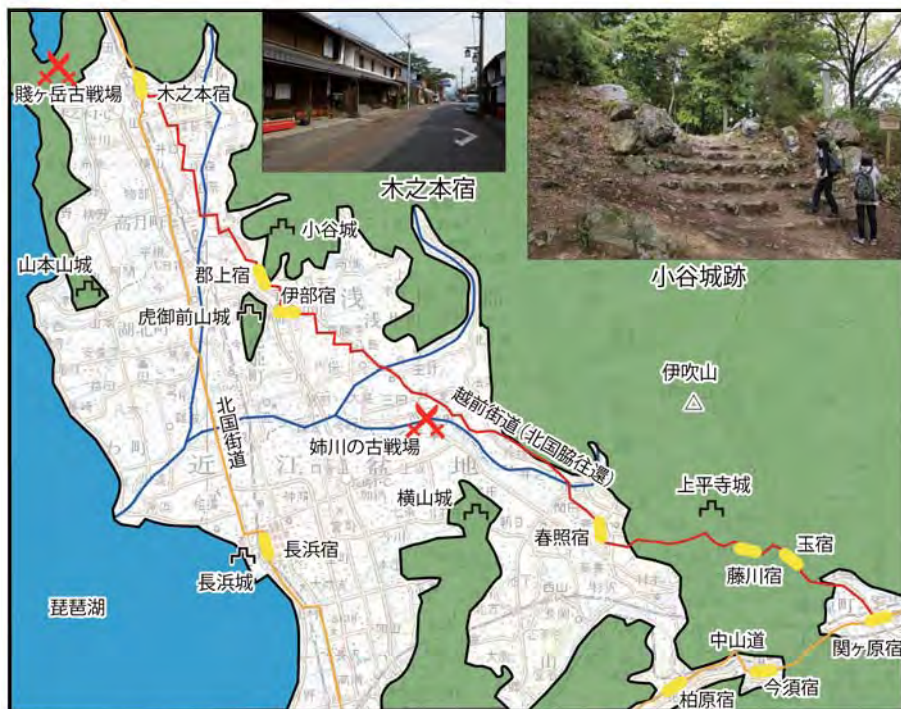
清瀧寺京極家墓所（史跡） 上段のテラスには氏信から高吉まで、中世の宝篋印塔が並びます。

■ 4. 越前街道（北国脇往還） ■

『上平寺城絵図』には、上平寺城下の南側を通る越前街道が描かれています。北国脇往還とも呼ばれるこの道は、伊吹山のふもとを通り、美濃から越前へ向かう最短ルートとして、古くより利用されてきました。

戦国時代には、街道沿いに京極氏館や浅井氏の小谷城が造られ、北近江の覇権をめぐり、京極高きや浅井長政、織田信長、羽柴秀吉など、幾多の武将がこの道を駆け抜けました。

江戸時代には、中山道と北国街道木之本宿を結ぶ間道として、藤川・春照・伊部・郡上に宿場が置かれ、福井藩や加賀藩などの北陸地方の大名の参勤交代に用いられました。



越前街道（北国脇往還）

《コラム》越前街道（北国脇往還）にゆかりの人々

藤原定家 藤川宿（米原市藤川）は、北陸方面からの荷物のみを扱う片継ぎの宿場でした。

『淡海輿地志略』には、『新古今和歌集』の編者として有名な平安時代の歌人藤原定家がこの地に滞留したとする話が紹介されています。



藤川宿の越前街道（定家寓居跡付近）

羽柴秀吉—天下への道— 天正 11 年（1583）、織田信長の後継者の地位をめぐって、羽柴秀吉と柴田勝家が戦った賤ヶ岳合戦。勝敗を決した一手が、「秀吉の美濃大返し」です。秀吉は、味方の砦が柴田軍に奇襲されたとする報を受け、わずか 5 時間で大垣城の軍勢を木之本宿（約 50km）まで移動させました。その強行軍によって、秀吉は柴田勝家に勝利します。

秀吉の駆け抜けた道は越前街道でした。秀吉にとって、この街道は天下統一に続く道だったのです。



春照八幡神社の道標（米原市春照）

春照八幡神社（米原市春照）では、「大返し」の途中、秀吉が戦勝を祈願し、神田を寄進したことが伝わっています。

■ 5. 関連する文化財 ■

京極氏一族の墓（米原市上平寺）

京極氏館上段の伊吹神社の西側にあります。「永正五年(1508)」銘を持つものなど5基の五輪塔があり、徳源院に移された高濑の墓石も、かつてはここにあったと伝えられています。



弥高寺跡宝篋印塔（米原市弥高）

元は役行者の石窟の前にあったもので、戦時中にいまの場所に移されました。宝篋印塔と五輪塔で、いずれも不完全な組み合わせです。



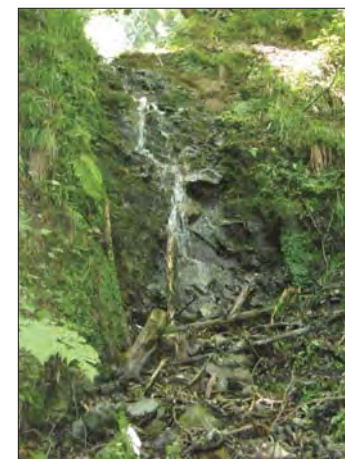
上平寺の雪室 ゆきむろ 京極氏館跡の対岸に雪室跡があります。横5m、縦7m、深さ3mの頑丈な石垣で作った窪地です。その起源は、京極氏の頃にさかのぼるといわれていますが定かではありません。明治から大正にかけて、5月に長浜の料理屋へ氷を卸したそうです。



雪室跡（米原市藤川）

山麓の湧水 『上平寺城絵図』には、内堀付近に「清明水」という湧水が描かれ、最近までこんこんと水をあふれさせていました。山中の弥高寺跡や上平寺城跡には、「マタギの水」や「行者の水」が湧き出し、僧侶や城兵の飲料水をまかっていたようです。両遺跡の間の谷は「赤谷」と呼ばれ、仏前に供養する「あか伽水」を採る「あか伽井」が名の由来だと思われています。

このほか山麓には、環境省の名水百選に選ばれている「泉神社湧水」（大清水）や、「ケカチ（悔過池）の水」（上野）、「コンコン清水」（高番）、「ぬすつとの水」（寺林）などがあり、縄文時代からこれらの水をもとめて集落が営まれてきました。城跡探訪で渴いたのどを潤してみたいかががでしょう。



京極氏館跡付近の滝



環境省名水百選「泉神社湧水」（米原市大清水）

大清水地区の遺跡 泉神社の湧水がある大清水地区は、古くは多賀左近将監正信が築城したと伝えられる天清城跡が集落背後に構えられています。上平寺の西に位置する大清水は、集落の山手を越前街道（北国脇往還）が通過し、ここから西は扇状地から北近江の平野部に続き、ここから東は、天清城や要害谷、家臣団屋敷などの防御施設を経て上平寺城下へ続く、まさに、上平寺城の前衛基地といえます。

集落山際には、京極家臣団に関わる「大津屋敷」「多賀屋敷」「大岐（隠岐）屋敷」「上津屋敷」や「番場屋敷」「的場」などの地名が並びます。



大清水地区の地名

■ 6. お城を活かしたまちづくり ■



上平寺城戦国浪漫のゆうべ

毎年11月23日には、近江中世城郭琵琶湖一周のろし駅伝が開催されます。これは鎌刃城跡の地元番場地区から始ったまちおこしイベントで、現在では遠く新潟県までのろしがつながっています。米原市内では、「鎌刃城祭り」や「上平寺戦国浪漫のゆうべ」など、地域の中世城館跡を活かしたまちづくりが盛んです。また、これらの活動から、手打ちそば体験や苔玉作り、手作り弁当販売などの活動が展開されています。



のろし駅伝（上平寺城跡）



鎌刃城跡見学会

7. 周辺文化施設の案内

米原市伊吹山文化資料館

伊吹山を取り巻く自然や山岳信仰・上平寺城跡の歴史資料、昭和30年代までの暮らしに根ざした民具などを手作り感たっぷりの展示で紹介する地元密着した資料館です。

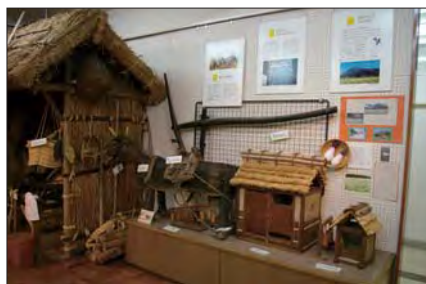
住所：米原市春照77番地

電話：0749-58-0252

備考：有料・休館日は月曜日、
祝日の翌日、年末年始



伊吹山文化資料館



資料館の展示風景

米原市柏原宿歴史館

中山道柏原宿の歴史や周辺の文化財について紹介しています。

京極氏関係の史料のほか、特産品の伊吹もぐさなど、柏原宿に関する資料が展示されています。

住所：米原市柏原2101番地

電話：0749-57-8020

備考：有料・休館日は月曜日、
祝日の翌日、年末年始



柏原宿歴史館



同館「福助の間」



国土地理院5万分の1地形図「長浜」を下図に使用